



社長の鶴丸でございます。

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2014年3月期 第2四半期の決算概要についてご説明いたします。



まず私から、第 2 四半期の決算概要および第 3 四半期の業績予想についてご説明いたします。

エグゼクティブサマリ	
<b>I. 2014年3月期 第2四半期 決算概要</b>	
■	半導体売上高は、例年第2四半期にピークを迎える季節性要因もあり、前四半期比9.6%増の2,077億円
■	営業損益は、前四半期比11億円増の109億円と、これまで実施してきた構造改革効果もあり、3四半期連続で黒字を確保
<b>II. 2014年3月期 第3四半期 業績予想</b>	
■	半導体売上高は、前四半期比8.5%減の1,900億円を見込む
■	営業損益は、売上減に伴う利益減があるものの構造改革効果などにより、前四半期比51億円増となる160億円の黒字を見込む
■	四半期純損益は、営業黒字の拡大に加え、モバイル事業売却実現に伴う特別利益を計上することなどにより、240億円の黒字を見込む
© 2013. Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 3	
RENEASAS	

こちらが本日のご説明内容のサマリでございます。

1つ目が、第2四半期の決算概要です。

第2四半期の半導体売上高は、例年第2四半期に売上がピークを迎える季節性要因もあり、前四半期比で9.6%増の2,077億円となりました。

営業損益は、前四半期比11億円増の109億円と、これまで実施してきた構造改革の効果もあり、3四半期連続で黒字を確保いたしました。

2つ目が、第3四半期の業績予想です。

第3四半期の半導体売上高は、前四半期比で8.5%減の1,900億円を見込んでおります。

営業損益は、売上減に伴う利益減があるものの、構造改革効果などにより、前四半期比で51億円の増加となる160億円の黒字を見込んでおります。

四半期純損益は、営業黒字の拡大に加え、モバイル事業売却実現に伴う特別利益を計上することなどにより、240億円の黒字に転換いたしました。



それでは、第 2 四半期の決算概要について詳しくご説明いたします。

**2014年3月期 第2四半期 決算概要**

- 半導体売上高は、例年第2四半期にピークを迎える季節性要因もあり、前四半期比9.6%増の2,077億円
- 営業利益は、売上増に伴う利益増などにより、前四半期比11億円増の109億円

(単位:億円)	2013年3月期		2014年3月期		
	第2四半期	第1四半期	第2四半期	前四半期比	増減比(前/2公前)
売上高	2,228	1,991	2,178	+188 (+9.4%)	+89 (+4.5%)
半導体売上高	2,053	1,896	2,077	+181 (+9.6%)	+73 (+3.7%)
営業損益	△57	93	109	+11	+67
経常損益	△68	85	54	△32	+54
四半期純損益	△943	△40	△38	△48	+272
(参考)特別損益	△859	△87	△112	△25	+208
1US\$=	79円	93円	98円	±0円	±0円
1ユーロ=	98円	127円	130円	3円増減	1円増減

© 2013, Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 5 RENESAS

5 ページは、第 2 四半期の業績サマリです。

半導体売上高は、例年第 2 四半期に売上がピークを迎える季節性要因もあり、前四半期比 9.6%増の 2,077 億円となりました。

営業損益は、売上増に伴う利益増などにより、前四半期比で 11 億円増の 109 億円となりました。



6 ページは、四半期ごとの業績推移です。

第2四半期の半導体売上高は、前四半期比で9.6%増、前年同期比では1.2%増となりました。

営業損益は、これまで実施した構造改革効果もあり、3四半期連続で黒字を確保いたしました。

**2014年3月期 第2四半期 半導体売上高の事業別状況①**

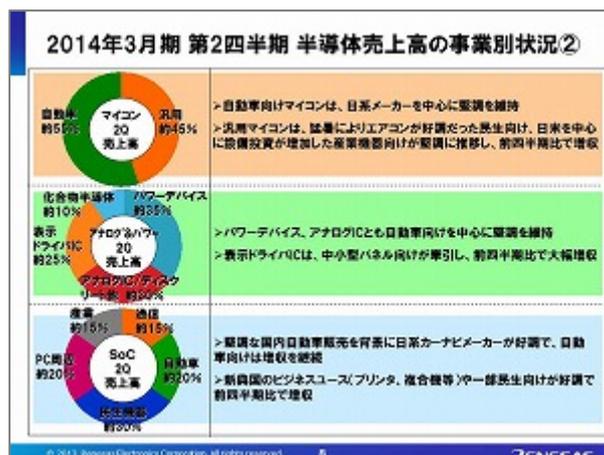
■ マイコン、アナログ&パワー半導体、SoCのいずれも前四半期比で増収

単位:億円	2013年3月期		2014年3月期		
	第2四半期	第1四半期	第2四半期	前年同期比	前四半期比
半導体売上高計	2,053	1,896	2,077	+24 (+1.2%)	+181 (+9.6%)
マイコン	809	856	889	+79 (+9.2%)	+32 (+3.8%)
アナログ&パワー半導体(A&P)	681	653	723	+43 (+6.3%)	+70 (+10.6%)
SoC	550	368	453	△97 (△17.6%)	+85 (+23.0%)
その他半導体	13	18	12	△1	△6

© 2013, Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 7 RENESAS

7 ページは、第 2 四半期の事業別半導体売上高です。

第 2 四半期は、マイコン、アナログ&パワー半導体、SoC のいずれも前四半期比で増収となりました。

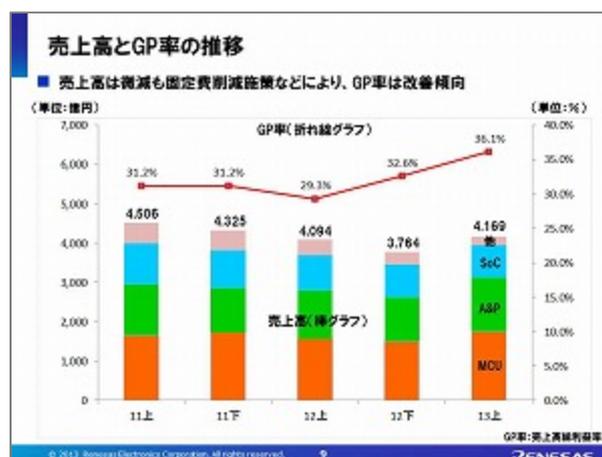


8 ページは、第 2 四半期の事業別半導体売上高について、さらに分野別で詳しく示したものです。

マイコンについては、日系メーカーを中心に自動車向けが堅調に維持しました。また、汎用向けは、猛暑によりエアコンが好調だった民生向け、日米を中心に設備投資が増加した産業機器向けが堅調に推移し、前四半期比で増収となりました。

アナログ&パワー半導体については、自動車向けを中心にパワーデバイスとアナログ IC が堅調を維持しました。また、表示ドライバ IC は、中小型パネル向けが牽引し、前四半期比で大幅な増収となりました。

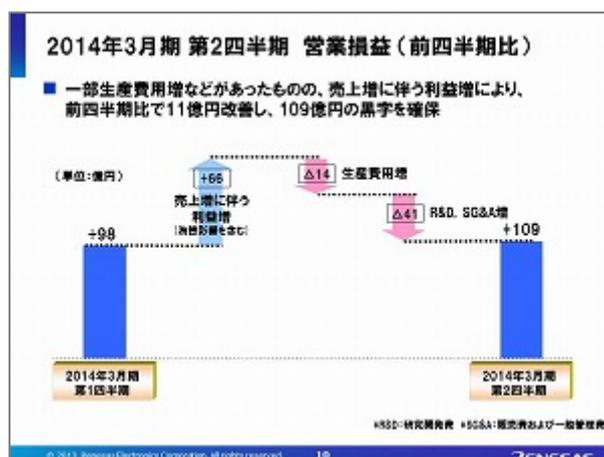
SoC については、堅調な国内自動車販売を背景に日系カーナビメーカーが好調で、自動車向けは当四半期も増収を継続しております。また、プリンタや複合機等の新興国向けのビジネスユース向け、一部の民生が好調な PC 周辺なども前四半期比で増収となりました。



9 ページは、2011 年度からの半期ごとの売上と GP 率の推移を示したものです。

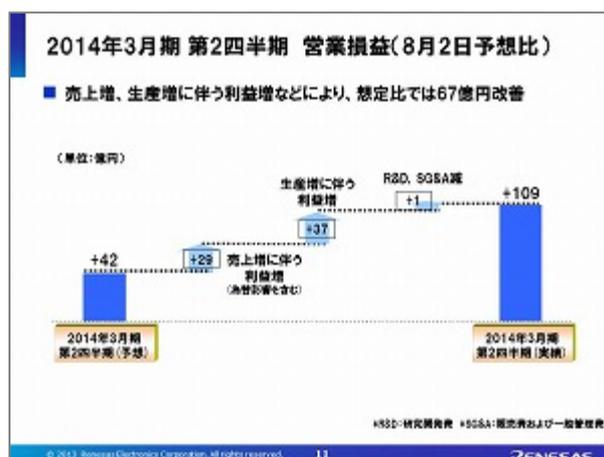
売上はわずかに減少しているものの、固定費削減施策等により、GP 率は改善傾向にあります。

特に、昨年実施した早期退職優遇制度に伴う固定費削減効果が発現した 12 年度下期から改善基調となり、また、円安による改善効果もあり、この 13 年上期は大きく GP 率が改善しております。



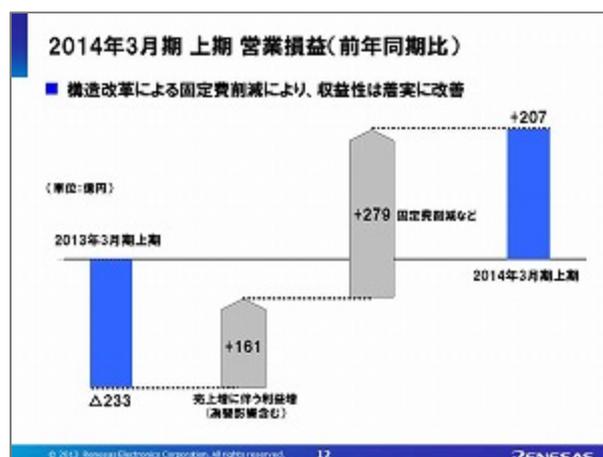
10 ページは、第2四半期の営業損益について、前四半期からの増減で示したものです。

営業損益は、一部生産費用増などがあったものの、売上増に伴う利益増により、前四半期比で11億円の増益となる109億円の黒字となりました。



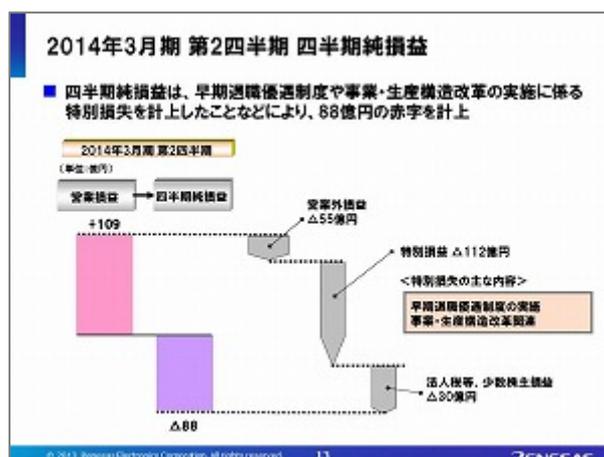
11 ページは、第2四半期の営業損益について、8月2日に公表した業績予想における営業損益からの増減で示したものです。

売上増に伴う利益増に加えて、生産増に伴う利益増や、期末費用の抑制により想定比で67億円の増益となりました。



12 ページは、今年度上期の営業損益について、前年同期からの増減で示したものです。

これまで実施した構造対策による固定費削減により、収益性は確実に改善しております。



13 ページは、第2四半期の四半期純損益の状況について、営業損益からの内訳を示したものです。

第2四半期の四半期純損益は、早期退職優遇制度や事業・生産構造改革の実施に係る特別損失を計上したことなどにより、88億円の赤字を計上いたしました。



14 ページは、第2四半期の特別損益について、8月2日に公表した業績予想における特別損益からの増減で示したものです。

早期退職費用の縮減やモバイル事業の売却実現に伴う費用減等により、8月2日に公表した業績予想における特別損益から208億円改善し、112億円の赤字となりました。



**キャッシュ・フローの状況**

- 昨年10月末に実施した早期退職優遇制度に係る最終の支払いがあったものの、営業キャッシュ・フローは、3四半期連続で黒字を確保
- 翌第3四半期には本年9月末に実施した早期退職優遇制度に係る支払いを予定、フリー・キャッシュ・フローの黒字定着へ向けて構造改革施策を継続

[単位：億円]	2013年3月期				2014年3月期	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	△181	46	△475	69	284	90
投資活動による キャッシュ・フロー	△107	△98	△61	△166	△25	△65
フリー・ キャッシュ・フロー	△287	△52	△536	△97	259	25

© 2013 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 16 RENESAS

16 ページは、キャッシュ・フローの状況です。

当期間中に、昨年10月末に実施した早期退職優遇制度に係る割増退職金の最終の支払いがあったものの、営業キャッシュ・フローは、3四半期連続で黒字となりました。

翌第3四半期には、本年9月末に実施した早期退職優遇制度に係る支払いを予定しており、フリー・キャッシュ・フローの安定的な黒字定着へ向けて構造改革施策を継続して実行してまいります。



次に、第 3 四半期の連結業績予想についてご説明いたします。

**2014年3月期 第3四半期 連結業績予想**

- 営業損益は、売上減に伴う利益減があるものの、構造改革効果などにより、前四半期比51億円増となる160億円の黒字を見込む
- 四半期純損益は、営業黒字の拡大に加え、モバイル事業売却に伴う特別利益を計上することなどにより、240億円の黒字を見込む

(単位:億円)	2013年3月期		2014年3月期			
	第3四半期 (合計)	第2四半期 (合計)	第3四半期 (合計)	前年同期比	前四半期比	第3四半期 (累計)
売上高	1,910	2,178	1,970	+60	△208	6,139
半導体売上高	1,772	2,077	1,900	+128	△177	5,873
営業損益	△79	109	160	+239	+51	367
経常損益	△111	54	130	+241	+76	269
四半期純損益	△466	△88	240	+706	+328	112
(参考)特別利益	△328	△112	145	+473	+257	△54
1US\$=	79円	98円	97円	100円換	100円換	98円
1ユーロ=	102円	130円	130円	289円換	±0円	129円

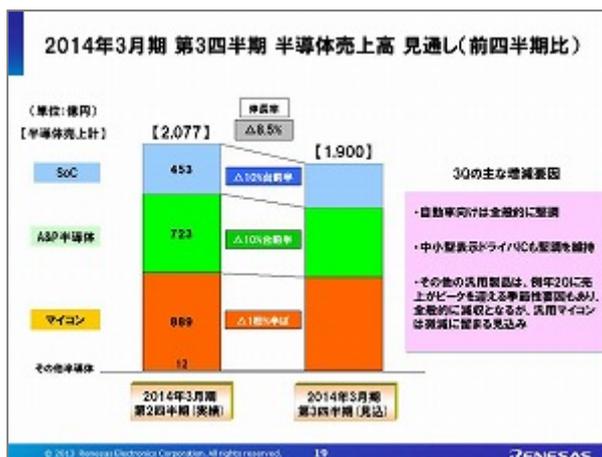
© 2013, Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 18 RENESAS

18 ページは、第3四半期の連結業績予想でございます。

第3四半期の半導体売上高は、例年通り、第2四半期に売上のピークを迎える季節性要因による減少があり、前四半期比で8.5%減の1,900億円を見込んでおります。

営業損益は、売上減に伴う利益減があるものの、構造対策効果などにより、前四半期比51億円増となる160億円の黒字を見込んでおります。

四半期純損益は、営業黒字の拡大に加え、モバイル事業売却に伴う特別利益を計上することなどにより、240億円の黒字に転換を見込んでおります。

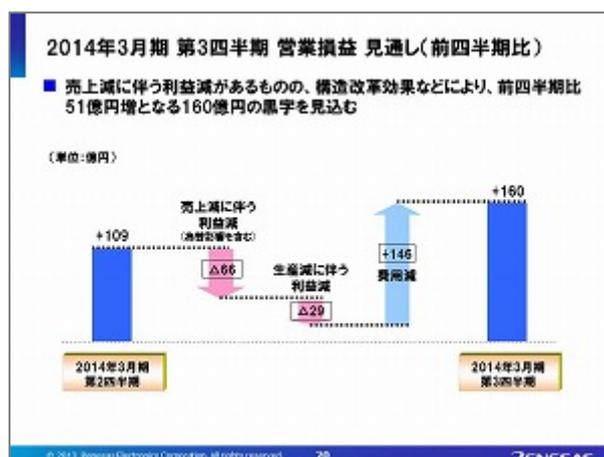


19 ページは、第 3 四半期の事業別の半導体売上見通しです。

自動車は全般的に堅調に推移すると見込んでおります。

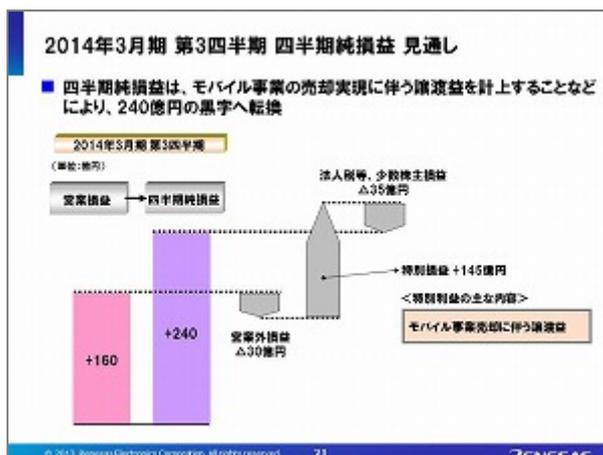
中小型パネル向け表示ドライバも堅調を見込んでおります。

その他の汎用製品は例年、第 2 四半期に売上がピークを迎える季節性要因もあり、全般的に減収となりますが、汎用マイコンは微かな減少に留まると見込んでおります。



20 ページは、第3四半期の営業損益について、第2四半期からの増減で示したものです。

売上減に伴う利益減があるものの、構造改革効果などにより、前四半期比で51億円の増加となる160億年の黒字を見込んでおります。



最後に 21 ページは、第 3 四半期の四半期純損益の見通しについて、営業損益からの内訳を示したものです。

第 3 四半期の四半期純損益は、モバイル事業の売却に伴う譲渡益を計上することなどにより、240 億円の黒字に転換を見込んでおります。

【将来予測に関する注意】

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、見積及び業績見込みは、使用点入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、適切なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見積し得るとは大きく異なる結果となることがおそれられます。実際の業績等に関する追加的な重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、中国、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスグループの競合、サービスに対する競争優位性や競争優位性による競争下悪化等、(3)新しい競争に参入された影響においてルネサス エレクトロニクスグループが引当額を確保に努められる期間、サービスを維持し続けることができる能力、(4)海運コストの増加等によるコストの増大等が挙げられます。これらの外にも様々な要因があります。また、経済成長の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当該の見込みと異なる結果となる可能性があります。

ルネサス エレクトロニクス株式会社  
© 2013 Renesas Electronics Corporation. All Rights Reserved.

2014 年 3 月期 第 2 四半期の決算概要のご説明は以上でございます。